

トビウオ通信 (12月号)

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ (TEL 0855-22-1720)

《沿岸イカ釣り漁業とスルメイカ資源》

今月は島根県西部の小型イカ釣りによるイカ類の漁獲動向と日本海のスルメイカの資源動向について報告します。

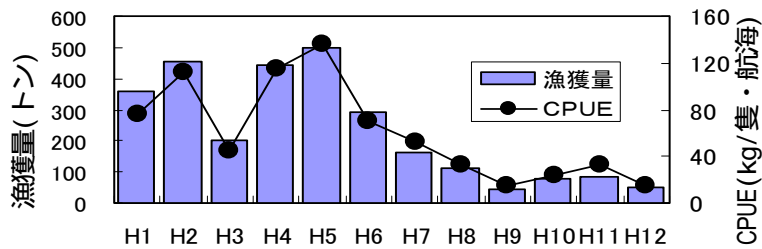


図1 浜田港地元小型船によるスルメイカ漁獲量
H12は11月までの集計

小型イカ釣り

平成 12 年に浜田港に水揚げされた小型イカ釣り船によるスルメイカ・ケンサキイカ(シロイカ)の漁獲量と CPUE(1 隻 1 航海当たりの漁獲量)および漁獲金額と単価の経年変動を図 1~4 に示します。

スルメイカ依然として低調

平成 12 年のスルメイカ漁獲量 (11 月までの集計) は 49 トンで、前年の 59%、平年の 24% と低調に推移しました。CPUE も 14kg で、前年の 43%、平年の 24% と前年・平年を大きく下回りました (図 1)。

漁獲金額は 1,135 万円で、前年の 36%、平年の 15%、単価は 231 円/kg で、前年の 62%、平年の 61% と極めて低調に推移しました (図 2)。

ケンサキイカはやや減少傾向か?

平成 12 年のケンサキイカの漁獲量 (11 月までの集計) は 126 トンで、前年の 76%、平年の 65% と低調に推移しました。CPUE は 37kg で、前年の 56%、平年の 61% と前年および平年を下回りました (図 3)。

漁獲金額は 1 億 1,982 万円で、前年の 76%、平年の 62% とやや低調に推移しました。単価は 949 円/kg で、前年の 99%、

平年の 93% とほぼ前年・平年並みでした (図 4)。

今年のケンサキイカ漁は、10 月になって活発化したものの、漁期前半の不漁が響いて全体としては 3 年連続の減少となりました。近年の一本釣り漁業はスルメイカ漁の不振、ケンサキイカも減少傾向で、非常に厳しい状況となっています。

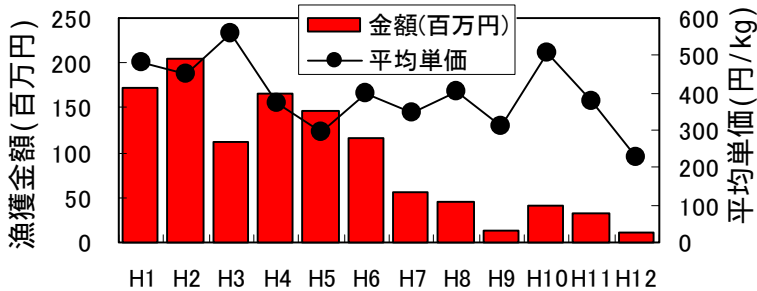


図2 浜田港地元小型船によるスルメイカ漁獲金額
および平均単価 H12は11月までの集計

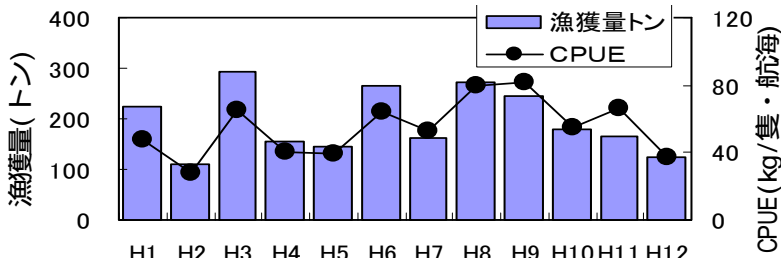


図3 浜田港地元小型船によるケンサキイカ
漁獲量 H12は11月までの集計

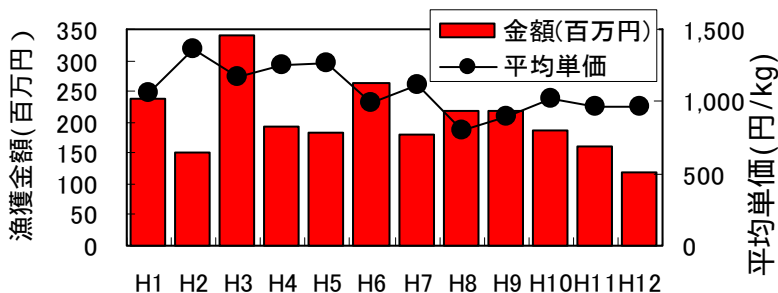


図4 浜田港地元小型船によるケンサキイカ漁獲金額
および平均単価 H12は11月までの集計

日本海のスルメイカ資源の動向

日本海のスルメイカ資源は良好！？

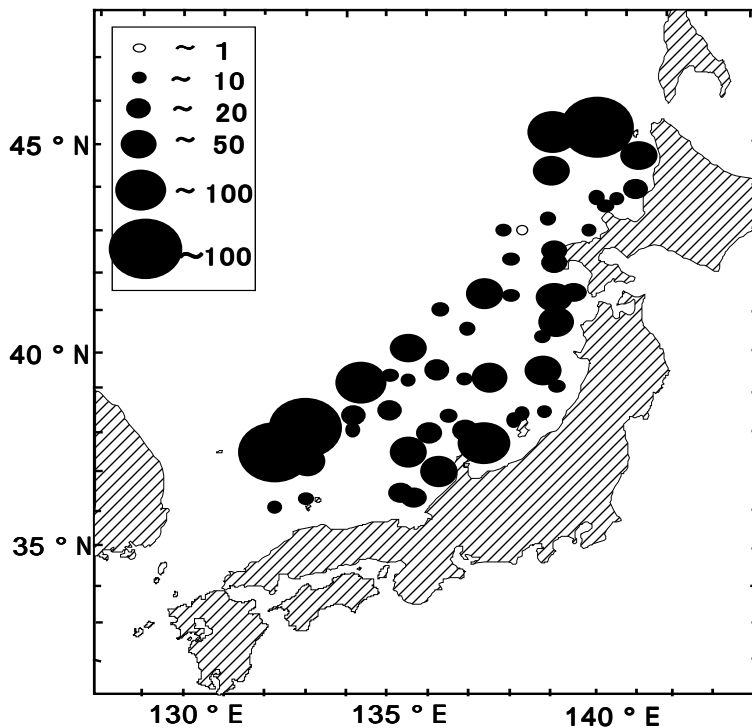


図5 スルメイカ漁場一斉調査によるCPUE (釣機1台1時間当たり漁獲尾数)の分布

図5に日本海区水産研究所(日水研)と日本海沿岸の道府県水産試験場が、平成12年6月下旬から7月上旬にかけて行った漁場一斉調査の結果を示します。図は日本海全域のCPUE(釣り機1台1時間当たりの漁獲尾数)の分布状況を表しています。CPUEはスルメイカの分布密度を示す数値ですが、全調査点の平均値は22.6尾と、前年(18.5尾)および平成7~11年の平均値(15.8尾)を大きく上回りました。ところが7月以降、日本海のスルメイカ漁は極端な不漁となり高水温によるスルメイカ資源の沖合海域への分散が指摘されました。一方、平成12年10月に日水研が山陰沿岸から九州沿岸にかけて行ったスルメイカ稚仔の分布調査の結果(図6)によると、スルメイカ稚仔の平均採集個体数は2.2で、前年(1.6)を大きく上回り、資源の減少が懸念されていたスルメイカも、再生産状況は比較的良好でした。

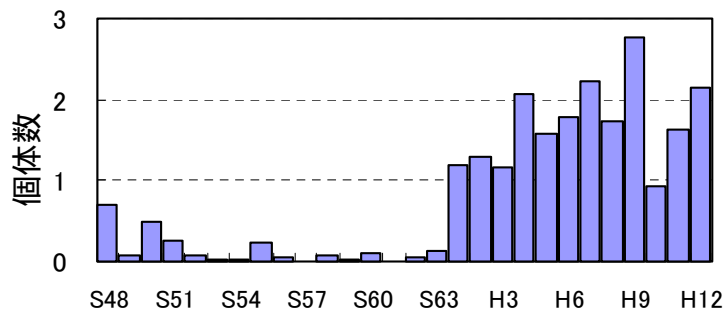


図6 スルメイカ稚仔平均採集個体数

日本海沿岸の漁獲動向

日本海沿岸(北海道~長崎県)の主要港における平成12年のスルメイカの月別漁獲量を図7に示します。

漁獲量は各道府県が集計したもので、鳥取、島根、山口の3県は主要港の、その他の道府県は各道府県で水揚げされた漁獲量を用いています。

平成12年11月までに日本海沿岸に水揚げされたスルメイカは50,444トンで、前年(61,200トン)の82%、平成平均(67,647トン)の75%と、前年・平成平均をやや下回りました。これは7月~10月まで平成平均を大きく下回る極端な不漁に見舞われたことに起因しています。この時期、スルメイカがどこにいたのかはわかりませんが、大陸側の海域に分布していたのではないかと推測しています。11月になって漁獲量が急増しますが、これは大陸側に分布していたスルメイカが水温の下降とともに、日本沿岸に来遊してきたためと思われます。

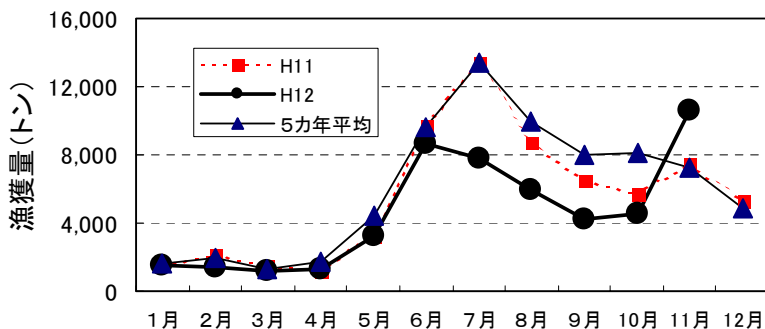


図7 日本海主要港におけるスルメイカ漁獲量

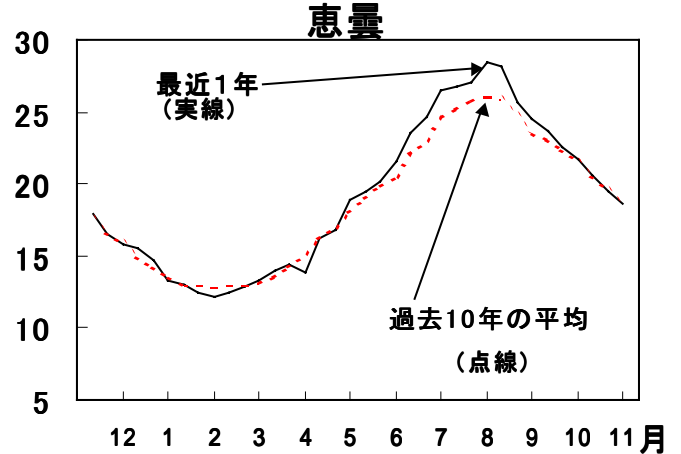
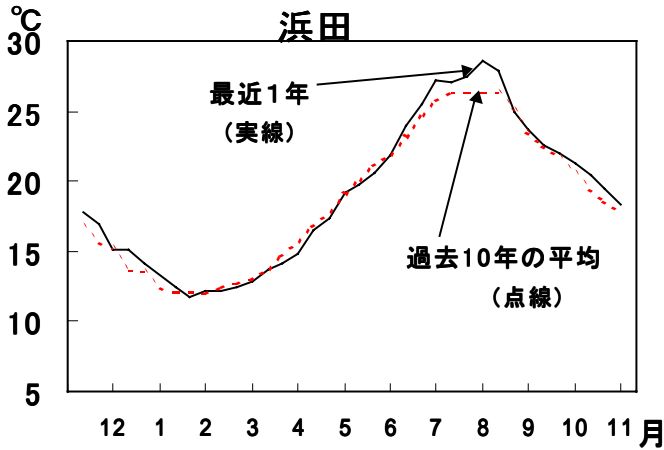
今後の漁模様

夏漁が振るわなかったものの、水温の下降とともに再び漁が活発化してきたこと、太平洋では活発な漁があったこと、卵稚仔の調査結果から稚仔の量は比較的多いことから、日本海のスルメイカ資源は高い水準にあると思われます。ただし、漁場が形成されるかどうかについては、今年のように環境によって大きく変動することもあるため予測するのは難しいのですが、資源状態は良好なので好漁になる可能性は高いと考えています。

《 11月の海況 》

11月	月平均	平年差	評価
浜田	19.5	+0.8	やや高め
恵曇	19.5	±0.0	平年並み

11月の月平均水温は10月に比べ浜田で2.4、恵曇では3.1 下降しました。浜田では「やや高め」、恵曇では「平年並み」の水温経過となりました。



11月下旬～12月上旬の海洋観測結果によると、本州沿岸部から隠岐諸島にかけて、表層(0m)および中層(50m)では水温18以上、底層(100m)でも16以上の暖かな水塊に覆われています。山陰海域の表層および中層の水温は、浜田の北方約70マイルに形成された冷水域周辺で平年よりも「やや低め」となっているほかは、一般的に「かなり高め～甚だ高め」、底層では冷水域周辺で「かなり低め～甚だ低め」のほかは「平年並み～やや高め」でした。

先月まで中層および底層で認められていた、冷水域と暖水域の境界に沿った強い潮境の形成とそれに沿った強い流れは、底層では引き続き認められますが、中層では見られなくなりました。

《 11月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量はマアジ主体に1,294トン、水揚金額は1億214万円でした。1統当りの漁獲量は324トンで前年の115%、平年の25%と、平年は下回ったものの、前年をやや上回りました。水揚金額は2,554万円でも前年をやや上回っています。恵曇では、ソウダガツオ、マアジ主体に総漁獲量509トン、水揚金額は5,408万円でした。1統当りの漁獲量は73トン(前年比:214%)、水揚金額は773万円(前年比:117%)でした。浦郷ではサバ、プリ主体に総漁獲量1,904トン、水揚金額は8,907万円でした。1統当りの漁獲量は381トン(前年比:194%)、水揚金額は1,782万円(前年比:72%)と量は多かったものの金額は伸びませんでした。浜田でのマアジ漁の好調が続いていますが、県全体では、マサバの漁獲割合が増加しました。

【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣り船(5トン以上)によるイカ類の漁獲量は、ケンサキイカを中心に9.7トン(前年比:90%)と前年並となりました。ケンサキイカとスルメイカの割合は量で12:1、金額では8:1となっています。ケンサキイカの魚体は、2段半～3段半が主体でした。一方、西郷のイカ釣り船(5トン以上)では、スルメイカ・ケンサキイカを中心に64.5トンの漁獲(前年比:146%)で、こちらはケンサキイカを中心に好調でした。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は344トン、総水揚げ金額は1億7,236万円、1統当り漁獲量は57.3トン(前年比105%、平年比115%)、水揚げ金額は2,873万円(前年比89%、平年比130%)でした。ムシガレ

イ（前年比 113%）、イボダイが漁獲の中心で、特にイボダイは例年にない漁でした。

恵曇港の総漁獲量は 159 トン、総水揚げ金額は 9,178 万円、1 統当り漁獲量は 39.8 トン（前年比 85%、
 平年比 94%）水揚げ金額は 2,295 万円（前年比 81%、平年比 88%）でした。漁獲の中心はヤナギム
 シガレイ（前年比 61%）、アンコウ（前年比 127%）、キダイ（前年比 167%）でした。

【小型底びき網漁業】

和江・大田市両漁協では、出漁日数が前年に比べ増加したことにより、量・金額とも前年を 5～32%
 上回りました。1 航海当たりで見ると、和江漁協では量・金額とも前年を 11%上回りましたが、大田市
 漁協では量が 17%、金額が 10%下回っています。両漁協とも、ソウハチがまとまって漁獲され始めま
 した。またヤリイカは前年を上回る漁獲がありましたが、前月をやや下回りました。ソウハチは、近年、
 好調に推移しており、ヤリイカとともに水温が下がる今後の動向が注目されます。

【定置網漁業】

前月に引き続き、県西部と東部では比較的好調な漁模様が続いています。浜田港では、前月急増した
 マアジの漁獲量が半分程度まで減少したものの依然として漁獲の半分を占めています。漁獲量・水揚金
 額はともに前月をやや下回ったものの、前年ならびに前々年同期を大幅に上回っています。恵曇港では
 前月増加したマサバの漁獲量は急減しましたが、カワハギ類とブリ類の漁獲が急増し、漁獲量・金額と
 も好調であった前月をさらに上回っています。浦郷港では、前月漁獲の主体を占めていたハガツオ・ブ
 リが減少し、価格の低いソウダガツオが漁獲の主体となったため、漁獲量は前月と変わらないものの、
 水揚金額は半分以下まで減少しました。

【釣・縄】

県東部を除いて、クロマグロ（ヨコワ）の水揚げが好調です。県西部ではクロマグロが漁獲量の 6 割
 を占めています。一方、前月まで漁獲の主体であった、ケンサキイカは急減しました。県東部では、ソ
 デイカが 40%、ブリ、クロマグロが 15%づつを占めています。隠岐地区ではクロマグロが 50%、ソデ
 イカが 30%を占めています。いずれの地区も漁獲量は前月を上回るか同程度ですが、水揚金額は前月並
 か、やや下回っています。

漁獲統計

平成 12 年 11 月 1 日～30 日

漁業種類	水揚港	延隻数 ・統数	主要魚種	1 隻(統)1 航 海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	55	マアジ	23.5 トン	1,294 トン
	恵曇	52	ソウダガツオ・マアジ	9.8 トン	509 トン
	浦郷	59	マサバ・ブリ	32.3 トン	1,904 トン
イカ釣り (5 トン以上)	浜田	187	ケンサキイカ・スルメイカ	52Kg	9.7 トン
	西郷	231	スルメイカ・ソデイカ	279Kg	64.5 トン
沖合底びき網	浜田	27	ムシガレイ・イボダイ	12.7 トン	344 トン
	恵曇	33	ヤナギムシガレイ・アンコウ・キダイ	4.8 トン	159 トン
小型底びき網	和江	484	ソウハチ・アンコウ・キダイ	712Kg	344 トン
	大田市	309	ソウハチ	549Kg	170 トン
定置網	浜田	68	マアジ・ブリ・サワラ	1,240kg	84.3 トン
	恵曇	36	カワハギ類・ブリ・マアジ	820kg	29.5 トン
	浦郷	23	ソウダガツオ・マアジ・マサバ	1,316kg	30.3 トン
釣・縄	浜田	1,245	サワラ・ブリ・クロマグロ	18kg	22.4 トン
	五十猛	592	クロマグロ・ケンサキイカ	69kg	40.8 トン

1 隻(統)1 航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。